

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社 平成		
事業所名	グループホーム 道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161-52		
自己評価作成日	平成30年1月24日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> 地域の皆様と一緒に生活できる居場所作りに努めています。 笑顔のたえない、明るくくらしができるように支援しています。 花、木々等を飾り、温かみのある施設を心がけています。 一人ひとりのできる事を活かしていけるように努めています。 ターミナルケアに対して、家族・主治医との円滑な連携に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2092400015-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>利用者一人ひとりがふだんの生活を続けていても身体が思い通りに動かなくなり、食べることも困難になって、高齢化や重度化が進む中、このグループホームは積極的に何人ものターミナルケアを実施してきている。そのために、本人、家族との相談や主治医、看護師とも密接な連携、医療処置はどうするのか、延命処置はどこまでやるのか職員との共通理解を図りながら、利用者の最期の最後、エンゼルケアまで行ってきた。</p> <p>このような職員体制ができているのは、職員の次のような細やかな対応が実を結んでいるからだと考える。その日の体調がすぐれなかったり、ふだんから言葉遣いがよくなったりする利用者がいて対応に苦慮することが多いと思われたのに、腰を低くし利用者の目をしっかり見て笑顔で相づちをうったり、根気強く手振り、身振りで理解をしようとしていたりしている職員の姿を見てきたからである。</p>

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成30年2月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(東)		項目		項目			
項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

ユニット名(西)

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。「セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 独自の理念を掲げ、皆で共有している。 壁に提示し、いつでも目につくようにしている。 	利用者、家族、職員、地域の方々との「輪＝連携」「和＝協力」「話＝対話」を大切に、実践につなげている。特に、職員の利用者に対して、本人らしく、生き生きとして、のんびりとした生活を支えている態度が素晴らしい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事(文化祭、どんど焼き、川掃除等)に参加している。 花や野菜を届けてくださる。 天気を(洗濯物が濡れる)知らせてくださる。 地域の避難訓練などには連絡をいただける。 	どんど焼き・花祭り・町や地区の文化祭・福祉大会などの地域の行事に利用者も参加し、川掃除・資源回収などの地道な地域活動に職員も参加している。また、海外青年協力隊の研修や中学生の職場体験を受け入れたり、ボランティアの諸活動を受け入れたりして、積極的に交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 海外青年協力隊の研修を受け入れている。 中学生の職場体験を受け入れている。 他施設の職員の研修を受け入れている。 ボランティアを受け入れている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に出された意見は職員に伝え、サービスの向上に活かしている。 	5月、7月、8月、10月、12月、2月の年6回、地域の方々の協力を得て、順調に運営推進会議を開催してきている。こうした会議の中で、地域の行事や災害時の避難などの話題が話し合われたり、グループホームでの夏祭りに参加してもらったりして、共通理解を広げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 役場に出向き担当者と面談し、施設の状況を報告し、助言を受けている。 	運営推進会議に町の担当者が毎回参加してもらい、積極的に関わることができている。また、町の福祉課を中心とした、月1回程度の事例検討会では、グループホームのケアの実例などを発表して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束しない事を前提とし、やむを得ない場合には必要最小限としている。ご利用者ご家族に説明し、同意を得ることを原則としている。 玄関の施錠や行動の制限などはせず、職場研修などで再確認している。 	ベッドの柵をオープンバーにしたり、センサーを設置したり、鈴をつけたりして、身体拘束をしないケアに努めている。東ユニットには、家族の同意を得て、4本柵や予防着の例があるが、見直し、身体拘束をなくすように働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 虐待を理解するように職員会等で研修している。 言葉遣いや言葉のかけ方について常に考えるように努めている。 		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、ご利用者の権利が保障されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居の契約時に、ご利用者本人やご家族の希望や不安、要望を言いやすい雰囲気の中で締結できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を設置し、意見や提案を運営に反映している。 ・ご家族が訪問時にお聞きしている。	グループホームの「夏祭り」の行事に合わせて、家族会も年1回開催している。「夏祭り」や夕食会の終わった後、和やかな雰囲気でお話し合われている。家族の中から、もっとグループホームの手伝いをしたいとの要望も出てきている。	家族会がなかなか盛り上がりがないようなので、話し合いの形や話題について工夫していきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会やミーティング、また、個々の話し合いの中で要望や意見を聞き、反映できるようにしている。	毎月1回、東西ユニット合同の職員会を全員参加のもと司会を回り番にして、意見や要望が出やすいように配慮して行っている。その後、東ユニット、西ユニットに分かれてケア会議を開き、利用者の担当職員を中心に話し合いを進め、効果をあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・ミーティングや個々の話し合いを通し、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・リーダーはその時その時に必要と感じた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設とも交流し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接を行い、生活環境を理解し、ご本人やご家族から不安や要望をお聞きし、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との話し合い時に不安や要望をしっかりお聞きし、話の全てを聞き入れる気持ちで話し合いをし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前面接を行い、ご本人ご家族が必要としている支援を把握して職員に報告するとともに検討する。受入れ準備を念入りに行き、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活を共に過ごす者同士の関係を認識し、人生の先輩として教えていただくこと、注意していただいた事など受け止め、温かみのある生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・訪問時には、ご本人とご家族が絆を大切にできるように写真を見ながらお話をさせていただいている。このような配慮を通して、ご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・これまでご本人が大切にしてきた人や場所の関係が継続するよう、ゆっくりと話ができ、また、再び訪問していただけるような雰囲気づくりに努めている。 ・ご家族に報告している。	利用者がお正月やお盆などに帰宅したり、外泊したりすることを支援している。また、親戚や同級生、職場の方が来た時には、居間か居室かを使って気楽に話して行かれるように配慮している。そして、利用者個人の「生活日誌」に記録し、家族に報告できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の話の場づくりやレクリエーションや家事の手伝いなどが一緒にできる場づくり、雰囲気づくりに努めている。		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されても年賀状や暑中見舞いのやりとりをして、気軽に立ち寄っていただけるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・生活歴や情報提供書を元に、ご本人の希望や問題、家族の希望や不安を伺い、本人本位で考える努力をしている。	事前面接で得てきた生活歴や情報提供書を基に、その後利用者個人の「生活日誌」に追加された情報を積み重ねてきている。特に、利用者本人が輝いていた時の記録を活かし、思いや意向を把握しようと努めている。記録の様式を変え、分かりやすく工夫してきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前面接時やケアマネからの情報提供書を参考に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活の中で個人の有する能力や一日の過ごし方など、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・基本的にか月に一回のカンファレンスで問題や課題を出し合い検討し、ケアプランに反映している。 ・ご家族や関係者に事前に意見を聞くようにしている。	利用者一人ひとりの「毎日の記録表」を基に、担当者が「ケアプラン実施状況及び評価」の目標ごとに評価している。このような細かな評価を通して、カンファレンスで検討し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を個別に記録し、職員間で情報を共有し、そのつど話し合い、ご家族にも報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご利用者とご家族の状況や意向に合わせ、病院の付き添いや送迎をしている。		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・十分に地域資源を把握しきれていないところもあると思うが、地域の方々のボランティアの協力を得て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医との関係を築き、ご本人ご家族の意向を第一に考え、納得を得て施設内外で受診できるように支援している。	月1回、地域の協力医の往診があり、他のかかりつけ医にかかっている利用者についても、緊急時には連携して受診できるようになっている。また、精神科医にかかっている利用者にも月1回の往診があり、薬の処方などをしてもらっている。歯科医にかかっている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・気になったご利用者、体調異変のご利用者について看護師の指示を受け、主治医との連携のもと、適切な受診や対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・こまめにお見舞いに行き、ご本人が少しでも安心できる時間をつくるようにしている。 ・病院の地域連絡室と連携をとり、退院時や退院後の話し合いもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時にご本人ご家族の希望を聞き、職員間で情報を共有している。 ・ご家族が主治医と話し合いを持ち、意向を決め、連携を取りながら終末期に向け取り組んでいる。 ・体調に変化のあった時は、再度今後のあり方について意見を聞いている。	このグループホームは、これまで積極的にターミナルケアを行ってきた。この2年間でも利用者の重度化が進み、東ユニットでは2人の看取りを行ってきた。家族の理解と同意、医師や看護師の連携のもと、延命処置はどこまでするのかといった問題をかかえながら、最期の時をむかえることができるよう最善を尽くしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応は職員間で確認し、看護師から基礎的な指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練を全てのご利用者、職員で行っている。 ・運営推進会議にて協力を依頼している。地域の方にも協力を仰ぎ、参加していただいている。 ・2回のうち1回は、実際に則した訓練を行っている。	10月に火災訓練を行ってきた。消防設備の点検、通報訓練、消火器訓練を同時に行った。また、3月には地震訓練を行う予定である。職員2人で、利用者全員を夜間避難させていく想定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの尊厳について、職員会や朝のミーティングの折に話し合い、適切な言葉遣いや対応について考えている。	職員全員で、丁寧で親しみやすい言葉遣いをするように努めている。それは、利用者に対してばかりでなく、家族に対する対応も同様である。また、利用者自身の、自己選択や自己決定を補助するような言葉かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己選択や自己決定は、その方の人権を守る一歩だど捉え、自分で決定していただける言葉かけに心がけている。 ・ご本人の希望の表出を大切にし、実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人のペースやリズムで生活できるよう、ご利用者本位の考え方で対応している。 ・一人ひとりの状態の変化に気付き、希望や要望の把握に努めて扱うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人手持ちの衣類を季節ごと入れ替え、ご本人と相談しながらオシャレの要望を入れるようにしている。 ・美容院に依頼もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・何を食べたいか相談し、作り方を話し合い、できることをしていただいている。 ・季節の食材を使い、季節感を大切にしている。	毎日の献立は、その日の食材の在庫や買い出しを考慮して、その日の職員の当番が、利用者とも相談して決めている。東西ユニットごと別々の献立になることが多い。職員は、利用者の食事の摂り方を見て、一緒に食事をしたり、手を添えたりして支援していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事には三食汁物付き、午前午後のお茶には、好きな飲み物を飲んでいただくように準備している。 ・摂取量により、代替品を準備し声かけもを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後洗面所にて 口腔ケア、入れ歯洗浄を行っている。 ・口腔内の異常時は、往診を依頼したり、あるいは受診を支援したりしている。		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が基本であると認識し、個人個人の間隔を把握し、声かけ誘導している。	利用者一人ひとりの排泄チェックにより、本人に合わせて対応し、トイレでの排泄支援に努めている。また、布パンツ、リハビリパンツ、パット使用、オムツなどを、利用者の持っている力に合わせて使用している。重度化が進んできているので、トイレ介助が必要になってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は野菜を多くし三食汁物を付けている。 ・水分摂取を工夫し、好きな物を飲んでいただくようにしている。 ・一人ひとり好きな飲み物を把握し、出すようにしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの体調や希望に合わせ、ゆっくりと入っていただくように支援している。 	待望のリフト浴の設備を東ユニットに設けることができた。重度化が進んできている、東ユニットの2名と西ユニットの2名が利用している。利用者はそれぞれの状態に応じ、毎日入浴したり、リフト浴を利用したり、医療的ストップがかかって清拭のみになったりしても、それなりの支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・就寝は個々のペースに合わせている。 ・眠れない時は、お茶を飲みながらゆっくりと時間を過ごすように心がけている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの薬の処方をよく理解し、副作用についても学んでいる。 ・薬は飲み忘れのないように手渡しにて、飲み込みを確認している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの嗜好品を把握し支援している。 ・一人ひとりの力を活かし、やっていただくことはやっていただいている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の気候や四季折々に出かけられるように支援している。 ・お花見や紅葉狩り、地域の文化祭などにも出かけている。 ・外食にも出かけている。 	グループホームの敷地は非常に広く、ふだんは西側の駐車場を散歩したり、南側の畑で野菜作りや草取りをしたりしている。また、本人の希望で買い物に出かけたり、家の畑に出かけてじゃがいも作りをしたりして過ごすこともある。天気の良い日や冬の寒い日などは、ベランダで日光浴をしたり、東西ユニットの間の広い廊下を歩き来して気晴らしをすることもできる。	

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	・お金は預かっていない。ご本人も持っていない。必要な時はご家族に連絡を取り、そのつといただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人が電話をかけたいと言え、使用していただいている。また、ご家族から電話があればご本人と話ができるように支援している。 ・携帯電話を使用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間は掃除が行き届き、植物があり、生活感や季節感があり、気持ちよく過ごせる。 ・暖かさ寒さに対して 冷暖房や床暖を使い、快適に過ごせるように心がけている。	東ユニットのリビングや居間は東南に面していて、広く、明るい空間になっている。写真や作品、花や植物などで飾られていて、ソファや椅子があちこちに置かれているので、利用者は好きな時に、好きな場所でゆったりと過ごすことができる。夏はエアコン、冬は床暖がきいて、気持ちのよい空間にもなっている。東ユニットのリビングは西ユニットよりやや広いので、合同の集まりを行うことが	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルや椅子の他に、ソファがあり一人になれる場所を用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時にご本人が使い慣れたベットやタンスなどを持って来ていただいている。 ・ご本人と相談し部屋の配置を決めている。	家族と撮った大きな写真が貼られており、家族の一員であるという気持ちを持つことができる。居室内は家族と相談して、使い慣れた物や、居心地よく過ごせるような物を工夫し、設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、個室、トイレ、浴槽には安全のための手すりを設置している。トイレと洗面所は居室の近くにあり、自分でできることはできるように工夫している。		

(別紙)

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の理念をつくり上げている。 ・施設内に提示し、いつでも目につくようにしている。 	利用者、家族、職員、地域の方々との「輪＝連携」「和＝協力」「話＝対話」を大切に、実践につなげている。特に、職員の利用者に対して、本人らしく、生き生きとして、のんびりとした生活を支えている態度が素晴らしい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のどんど焼き、聖徳寺の花祭り、「道」の夏祭り、飯島町や田切地区の文化祭、福祉大会などに参加し交流している。 ・地域の資源回収などに協力している。 	どんど焼き・花祭り・町や地区の文化祭・福祉大会などの地域の行事に利用者も参加し、川掃除・資源回収などの地道な地域活動に職員も参加している。また、海外青年協力隊の研修や中学生の職場体験を受け入れたり、ボランティアの諸活動を受け入れたりして、積極的に交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊の研修生を受け入れている。 ・ボランティアと交流している。 ・中学生と交流している。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に出された意見は職員に伝え、サービスの向上に努めている。 	5月、7月、8月、10月、12月、2月の年6回、地域の方々の協力を得て、順調に運営推進会議を開催してきている。こうした会議の中で、地域の行事や災害時の避難などの話題が話し合われたり、グループホームでの夏祭りに参加してもらったりして、共通理解を広げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の折に町担当者の方に伝えながら、協力関係を築くよう努めている。 	運営推進会議に町の担当者が毎回参加してもらい、積極的に関わり合うことができている。また、町の福祉課を中心とした、月1回程度の事例検討会では、グループホームのケアの実例などを発表して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の折に、身体拘束について話し合い全員で取り組んでいる。 	ベッドの柵をオープンバーにしたり、センサーを設置したり、鈴をつけたりして、身体拘束をしないケアに努めている。虐待防止については、職員会で絶えず話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会にて勉強会をし全員で話し合っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会を通じて報告し、確認し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学時や入所時に説明し、ご本人の希望や不安、ご家族の要望や不安をお聞きし、サービスの提供に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や電話連絡の折に希望等をお聞きしている。	グループホームの「夏祭り」の行事に合わせて、家族会も年1回開催している。「夏祭り」や夕食会の終わった後、和やかな雰囲気でお話し合われている。家族の中から、もっとグループホームの手伝いをしたいとの要望が出てきている。	家族会がなかなか盛り上がらないようなので、話し合いの形や話題について工夫していきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会やミーティングなどで意見を聞き、反映していけるよう努めている。	毎月1回、東西ユニット合同の職員会を全員参加のもと司会を回り番にして、意見や要望が出やすいように配慮して行っている。その後、東ユニット、西ユニットに分かれてケア会議を開き、利用者の担当職員を中心に話し合いを進め、効果をあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個別に意見や要望を聞き、反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々のレベルを把握し、それに対応したコーチをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・お互いに研修を通じて質の向上に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人からの要望や不安を聞き、信頼関係を築くように努めている。 ・日々の会話の中から本人の気持ちを聞きとめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接時に不安や要望を傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・個々を尊重し、その人らしく生活できるようにサービス提供に努めている。 ・環境整備を行い、サービスの提供につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家事への参加などできる事を手伝って頂き、共に暮らしていけるように築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には、居室にてご家族とゆっくりとさせていただき、ご家族との時間を大切にするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人や近所の方々の面会時には、気軽に立ち寄っていただき、ゆっくりと過ごせるように努めている。	利用者がお正月やお盆などに帰宅したり、外泊したりすることを支援している。また、親戚や同級生、職場の方が来た時には、居間か居室かを使って気楽に話して行かれるように配慮している。そして、利用者個人の「生活日誌」に記録し、家族に報告できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりを尊重し、穏やかな日々が過ごせる様に、居場所や言葉かけに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・年賀状や暑中見舞いなどのやり取りをしている。 ・お寄りいただいた時にお茶を飲みながらお話をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人や家族の希望を聞き、介護計画を作成している。	事前面接で得てきた生活歴や情報提供書を基に、その後利用者個人の「生活日誌」に追加された情報を積み重ねてきている。特に、利用者本人が輝いていた時の記録を活かし、思いや意向を把握しようと努めている。記録の様式を変え、分かりやすく工夫してきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族からの情報を得て職員一人ひとりが情報を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活歴の中から個人の有する力を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人や家族の意見を聞きながら、現状を受け止めカンファレンスで話し合い、本人の希望やできる事必要な支援を取り入れ、介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの「毎日の記録表」を基に、担当者が「ケアプラン実施情况及び評価」の目標ごとに評価している。このような細かな評価を通して、カンファレンスで検討し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に応じた見直しを行っている。 ・変化が生じた場合には、個別に記入し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者や家族の希望や状況に合わせて病院への付き添いや送迎を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアや地域の方々の協力をいただきながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月1回の定期往診、それ以外にも必要時は往診をお願いしている。	月1回、地域の協力医の往診があり、他のかかりつけ医にかかっている利用者についても、緊急時には連携して受診できるようになっている。また、精神科医にかかっている利用者にも月1回の往診があり、薬の処方などをしてもらっている。歯科医にかかっている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調不良時には、看護師と主治医との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には情報提供を行い、退院前には病院側とのカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族、主治医との話し合いを頻回に行い、施設での終末期を希望される時は、できる限りの支援を行っている。	このグループホームは、これまで積極的にターミナルケアを行ってきた。この2年間でも利用者の重度化が進み、西ユニットでは3人の看取りを行ってきた。家族の理解と同意、医師や看護師の連携のもと、延命処置はどこまでするのかといった問題をかかえながら、最期の時をむかえることができるよう最善を尽くしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルは個別に分けている。 ・看護師より具体的な指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を利用者と全職員で行っている。 ・運営推進会議にて災害時の協力をお願いしている。	10月に火災訓練を行ってきた。消防設備の点検、通報訓練、消火器訓練を同時に行った。また、3月には地震訓練を行う予定である。職員2人で、利用者全員を夜間避難させていく想定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉かけには充分注意し、人格を尊重するように生活する中で気をつけていくようにしている。	職員全員で、丁寧で親しみやすい言葉遣いをするように努めている。それは、利用者に対してばかりでなく、家族に対する対応も同様である。また、利用者自身の、自己選択や自己決定を補助するような言葉かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望を大切に実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを大切にし、その方にあった生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみやオシャレができるよう、季節にあった衣類の用意をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・準備や片付けをしていただいている。 ・好み等をお聞き楽しみながら食事ができるように支援している。	毎日の献立は、その日の食材の在庫や買い出しを考慮して、その日の職員の当番が、利用者とも相談して決めている。東西ユニットごと別々の献立になることが多い。職員は、利用者の食事の摂り方を見て、一緒に食事をしたり、手を添えたりして支援していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分には注意しながら提供している。 ・食事制限のある方には医師と相談しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご本人ができる方には、見守りながら歯磨きをしていただいている。 ・夕食後には洗剤を使用して清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に声かけをし、トイレ誘導している。 オムツ使用者もご本人の希望時にはトイレで排泄を支援している。 	利用者一人ひとりの排泄チェックにより、本人に合わせて対応し、トイレでの排泄支援に努めている。また、布パンツ、リハビリパンツ、パット使用、オムツなどを、利用者の持っている力に合わせて使用している。重度化が進んできているので、トイレ介助が必要になってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 水分(お茶コーヒー等)や果物を取り予防に努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 日を決めて行わずに入浴出来るようにしている。 ご本人が拒否された時は時間をずらしたり、日にちを変えて入浴していただいている。 	待望のリフト浴の設備を東ユニットに設けることができた。重度化が進んできている、東ユニットの2名と西ユニットの2名が利用している。利用者はそれぞれの状態に応じ、毎日入浴したり、リフト浴を利用したり、医療的ストップがかかって清拭のみになったりしても、それなりの支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 室温や掛け物を調整し冬季は湯たんぽ、エアコン、床暖房で暖かく休んでいただいている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 副作用や症状の変化を見落とさないように努めている。 お薬手帳を確認し、服薬の支援を行っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 家事を一緒にしていただくことで、日々の生活が張り合いになるように支援している。 ボランティアの方々と積極的に楽しみごとができるように支援している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> お花見、紅葉狩り、どんど焼き、ドライブ等に出かけられるようにしている。 	グループホームの敷地は非常に広く、ふだんは西側の駐車場を散歩したり、南側の畑で野菜作りや草取りをしたりしている。また、本人の希望で買い物に出かけたり、家の畑に出かけてじゃがいも作りをしたりして過ごすこともある。天気の良い日や冬の寒い日などは、ベランダで日光浴をしたり、東西ユニットの間の広い廊下を歩き来して気晴らしをすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時にご家族と連絡を取っている。 ・ご家族の希望で財布を持っている方もいる(1名)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状が届けば、一緒に返事を出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活感や季節感を感じられるように季節のお花を飾っている。 ・写真や絵等を飾って空間づくりに努めている。	西ユニットのリビングや居間は東に面していて、広く、明るい空間になっている。写真や作品、花や植物などで飾られていて、ソファや椅子があちこちに置かれているので、利用者は好きな時に、好きな場所でゆったりと過ごすことができる。夏はエアコン、冬は床暖がきいて、気持ちのよい空間にもなっている。畳を敷いた居間はこたつもあり、過ごしやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室やソファを利用して、居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時には、使い慣れた家具を持ってきていただいている。 ・居心地よく過ごしていただけるよう、ご本人やご家族と相談しながら工夫している。	家族と撮った大きな写真が貼られており、家族の一員であるという気持ちを持つことができる。居室内は家族と相談して、使い慣れた物や、居心地よく過ごせるような物を工夫し、設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自立して生活が送れるよう安全に気を遣いながら支援している。		